

# 新刊紹介

物流にスピードが強く求められる時代にあって、実物流を担う「物流事業者」「企業の物流部門」は、効率化を目指した「自動化」「ITシステム」の議論を先行しがちになる。それに呼応するように、自動化システムの導入例やITシステムを解説した本は数多く出版されている。

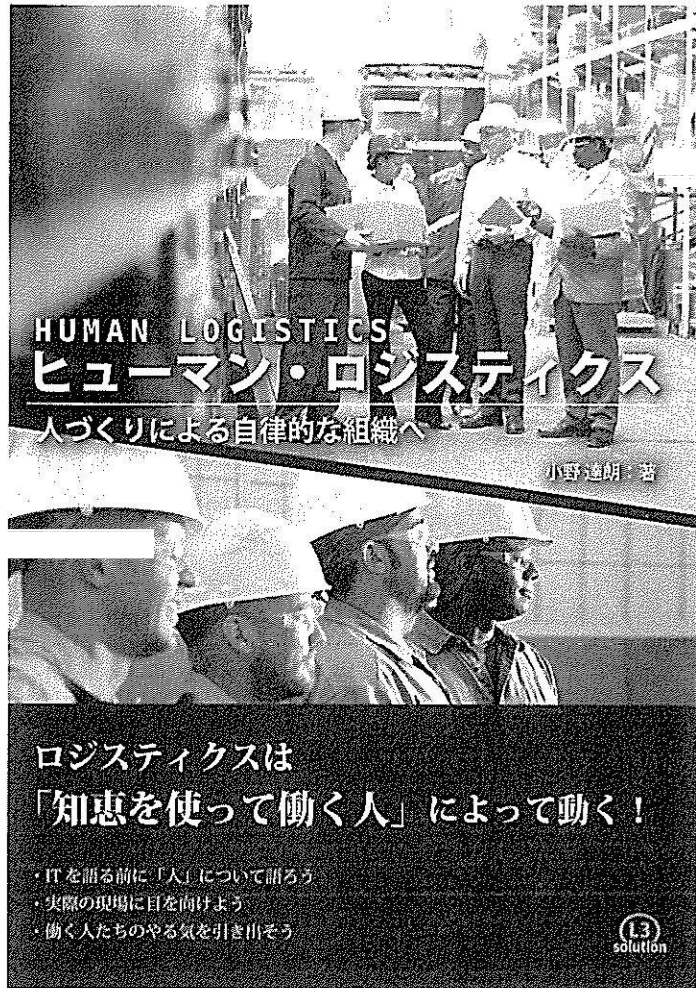
本書では、物流現場を動かすのは「ヒト」であり、自動化やITシステムは「ヒト」の動きを補完するものにすぎない、最初に「ヒト」について議論すべきと強調して、今までの物流本とは一線を画すユニークな内容となっている。

ITやシステムが先行すると「やらされ感」が強くなってしまふ。現場がある目標に向かって自分たちが考えて行った取り組みを、ひとつひとつ「見える化」していくことが達成感、モチベーションアップにつながり、ITやシステムの導入以上に高い効果が得られることがあると著者は強調する。

現場をコントロールするシステムでは「やらされ感」だけが残り、期待する効果を得ることが難しくなる。さらに「やらされ感」だけが積もっていくと、組織は機能マヒに陥ってしまう。現場の「やるぞ感」を醸成し、それをマネジメントすることで「現場の達成感」を積み重ねていくことが重要であるとしている。

現場の人を動かすのに、多額の投資を要するITシステムは必要ないかもしれない。日々の仕事の中に、効率化を目指す「見える化」、事故や間違いを防ぐための「見える化」など、働く人たちが、「自ら考え」「実践していく」自律的な現場を構築する「人づくり」が最も大切である。

このように本書では、現場の「カイゼン事例」と「人づくり」に対する著者の想いが書かれていて、具体的に物流の現場をどう変えていくかのヒント、事例も示されている。物流の現場づくりに携わっている中堅社員、管理職に是非お勧めする一冊である。



## 『ヒューマン・ロジスティクス ~人づくりによる自律的な組織へ~』

2014年9月21日発行 162ページ 定価 本体 1,500円 + 税

アマゾンでのみの販売。10冊以上の大口注文の場合は、(株)エル・スリー・ソリューションのホームページから直接注文

著者：小野達朗

1948年秋田県生まれ。70年プロセス資材株式会社(富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社)に入社後、2005年に同社の物流子会社ビーポート(現エフアール)社長に就任。06年に主導していた共同物流の推進が「グリーン物流パートナーシップ推進モデル事業」に認定された。12年にヒューマンロジスティクス研究所を設立